

# 健全財政の維持に係る資料

資料 2

## ○用語解説

### 【歳出】

支出する金額。その支出には必ず財源の裏付けが必要となる。

### 【歳入】

収入する金額。歳出の財源となるもの。

### 【財源】

以下の2種類に分類される。

#### ① 特定財源

使い道が決まっている歳入。国や県の補助金、市債、使用料などが該当。

例) 生活保護費の国庫負担金、保育所の運営費の国庫補助金、学校建設の際の市債など

**対象の事業を実施しない場合は入ってこない財源**

#### ② 一般財源

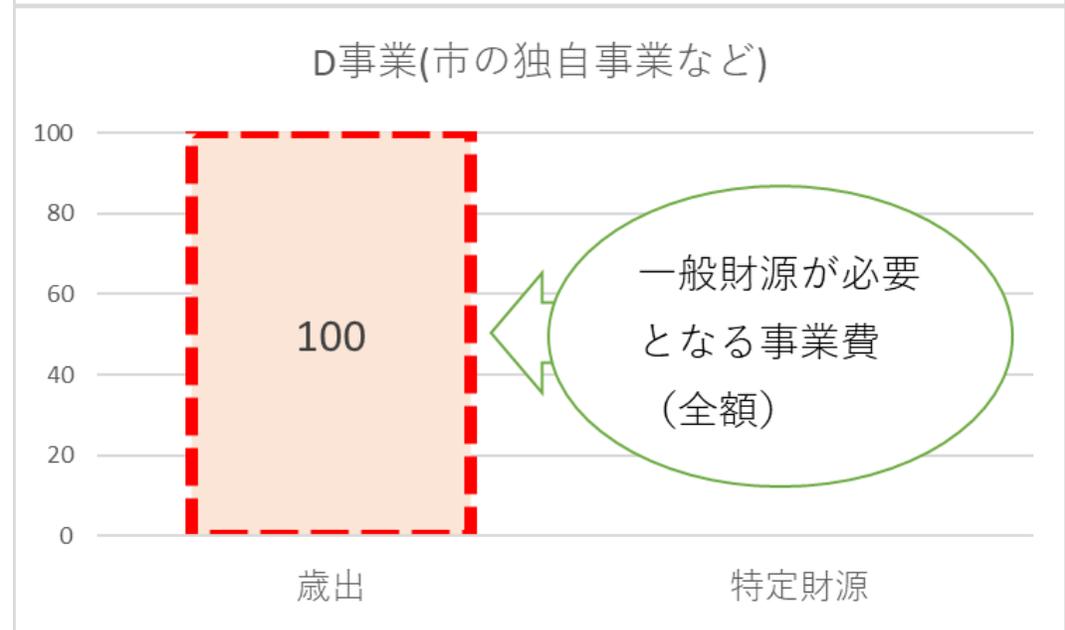
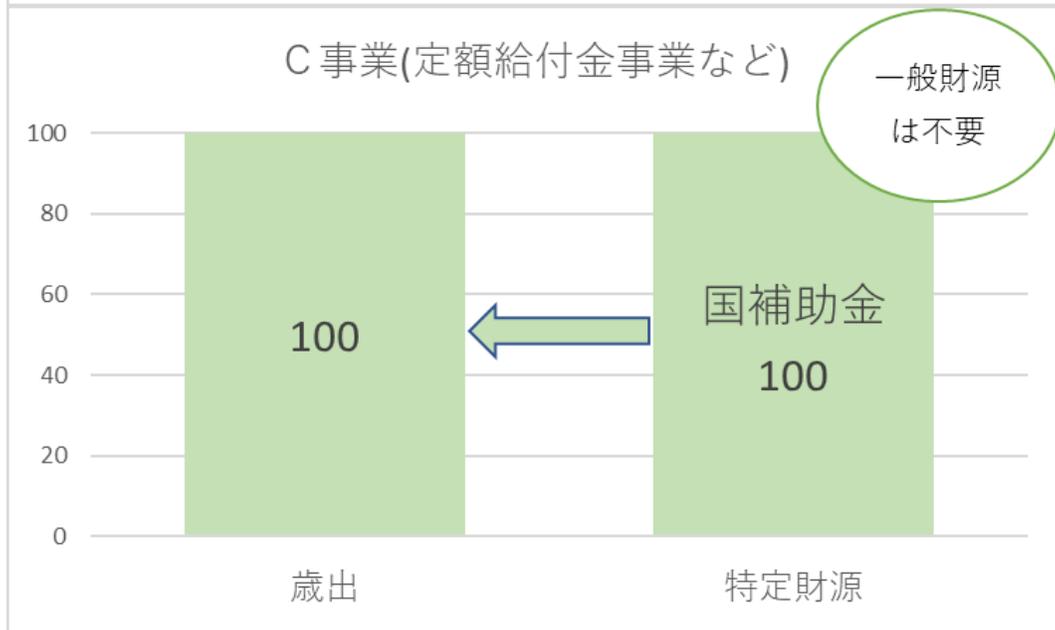
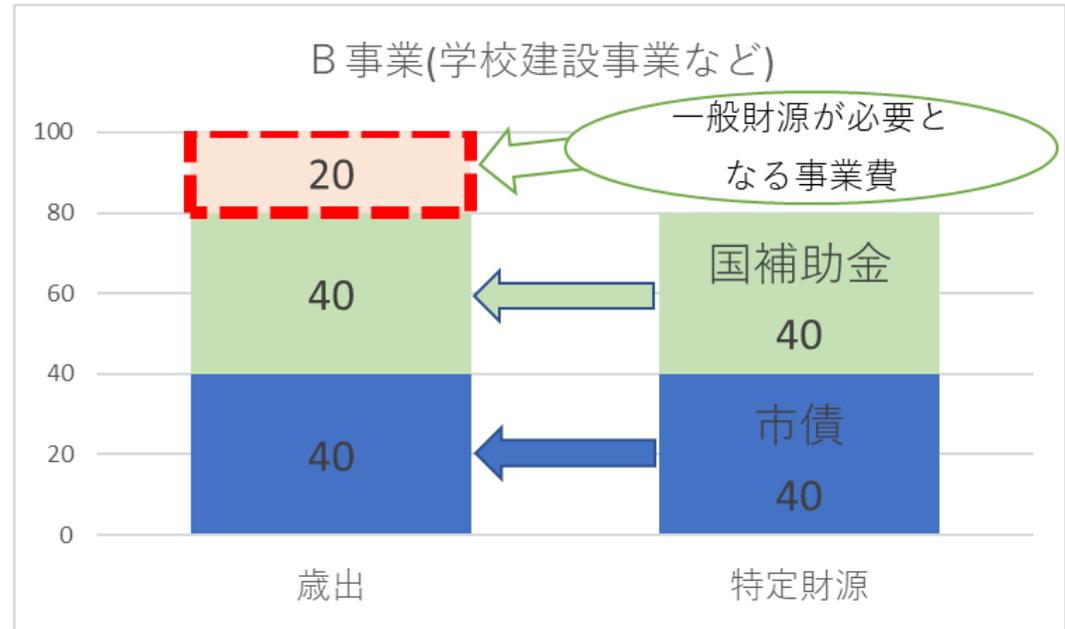
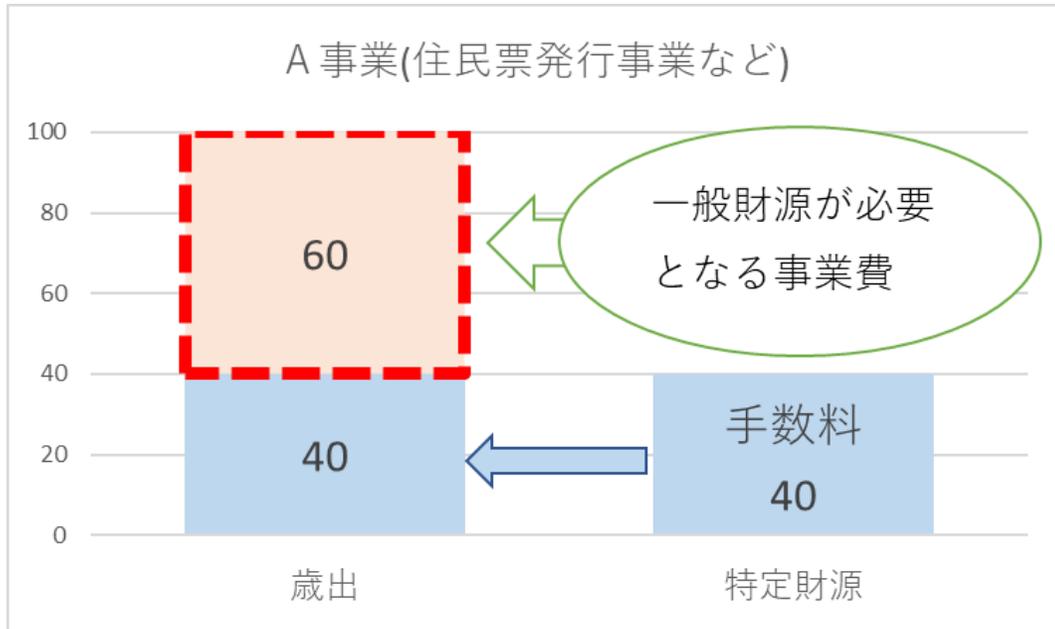
使い道が特定されず、どの経費にも自由に充当できる歳入。

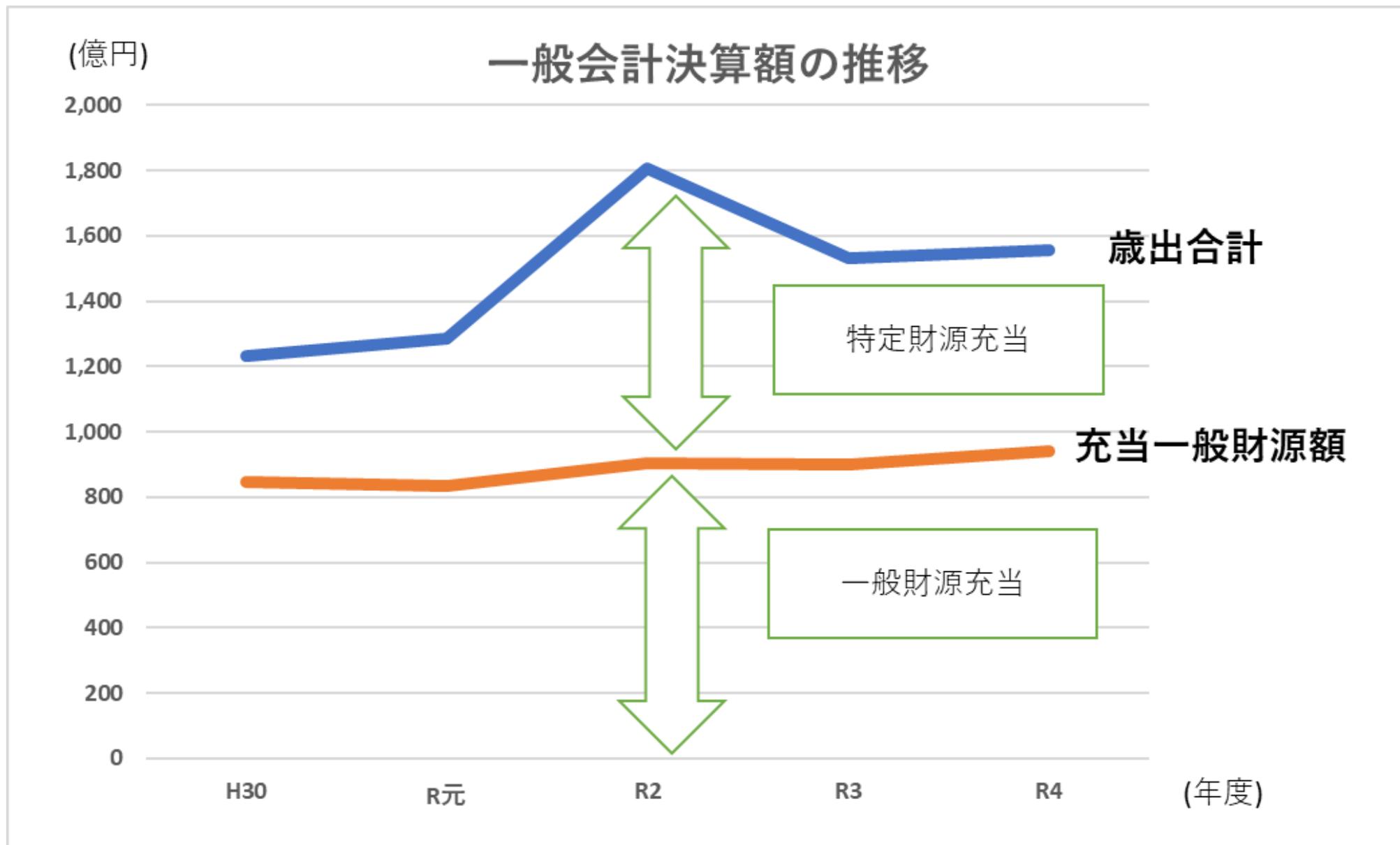
例) 市税、地方交付税など

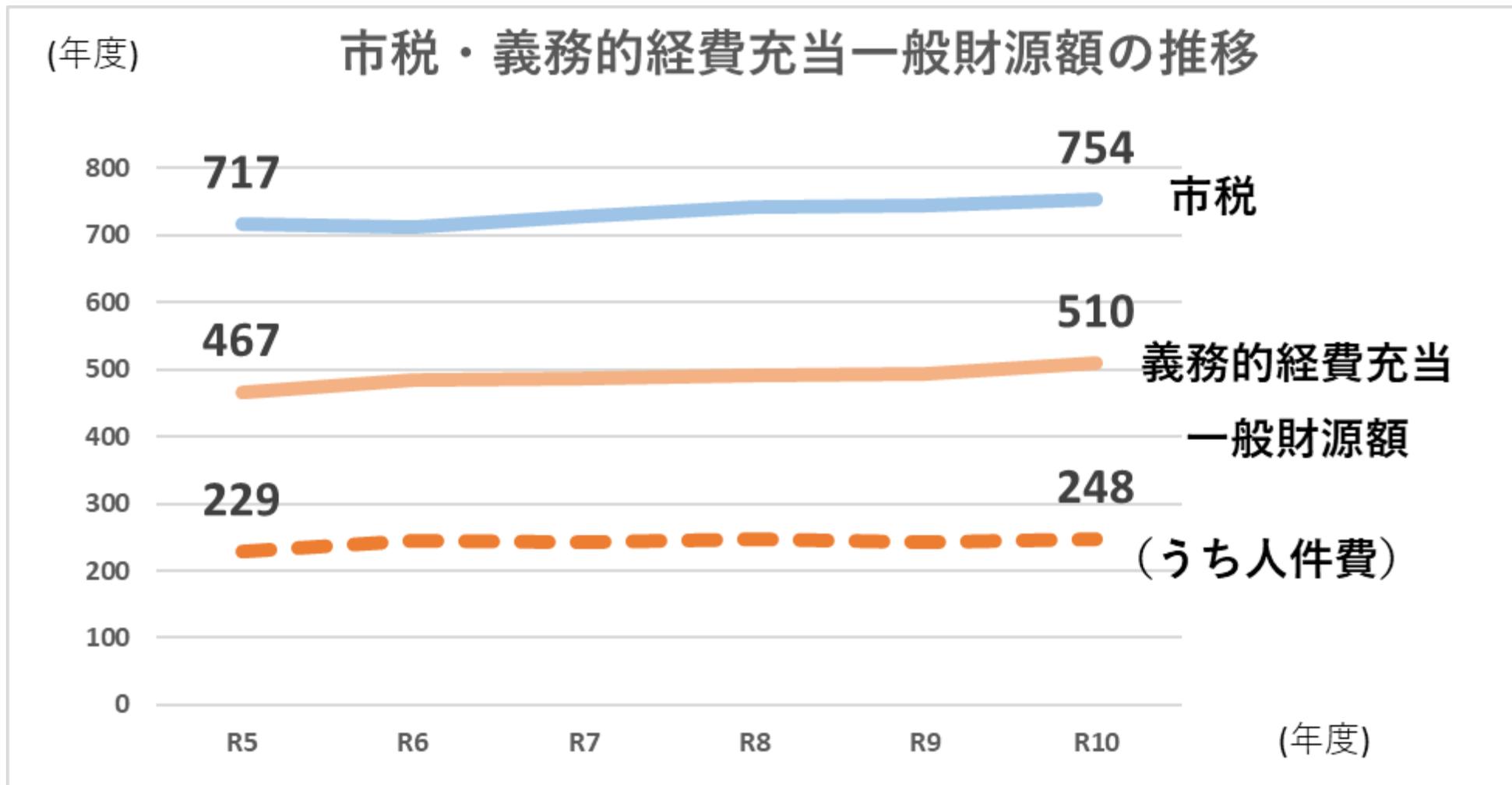
### 【充当一般財源額】

**その事業を実施するために必要となる一般財源の額**を表す。

# 充当一般財源額のイメージ（各事業の歳出を100とした場合）







※義務的経費とは、歳出のうち任意に削減できない極めて硬直性が強い経費のことで、具体的には職員の給与等の「人件費」、生活保護費等の「扶助費」及び地方債の元利償還金等の「公債費」からなっています。